回覧

第６号　2023 年４月１日
発行　安原地区歴史研究会

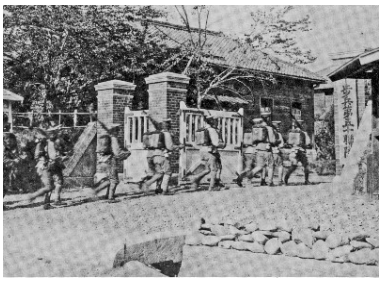
安原地区歴史研究会だより

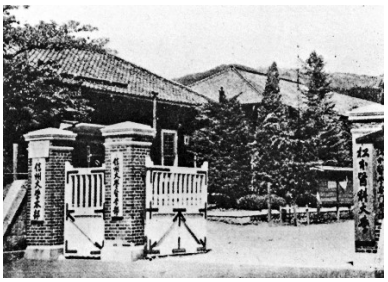
★安原地区　明治になって出来た町

旭町・中原町・元原町は松本城下町の外側、桐原分・松本分と呼ばれていた地域です。江戸時代には民家は少なかったため、村にはなれず、「分」と呼ばれていました。安政時代（1854～60）村高は９６１石戸数は５０軒以下だったようです。この桐原分・松本分には藩士の耕作地が大分あったとのことです。明治５年になると松本分は桐原分に統合され、桐村となりました。
明治８年桐村は蟻ケ崎村などと一緒になり深志村となり、明治１４年深志村は桐村、渚村、白板村、宮淵村、蟻ケ崎村に分村、明治２２年には合併して松本町の大字となる。この時、中原町、元原町ができました。明治２３年、県道第２線路（松本～上田）が開通して旭町が誕生しました。

★旭町の誕生

明治２３年、和泉町で西へ曲がっていた善光寺街道を真直ぐに延ばして、いまの信大前―中原町―岡田―上田へと繋げました。「第２線路」とよばれた現在の国道１４３号線です。翌年旭町が誕生しました。「旭」とは東方に位置し旭日の出ずる方面なり（旧松本市史）とあります。軍の施設（連隊）の誘致を予期しての命名だとおもわれます。この沿道には旭町小学校や県の蚕業試験場がつくられ、明治４０年には待望の「歩兵第５０連隊」が誘致されました。戦後５０連隊の跡地は信州大学と信大附属病院となりました。


歩兵５０連隊の正門


信州大学発足当時の正門

現存する連隊赤レンガ兵舎（糧秣庫）

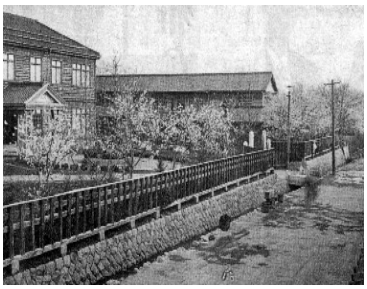
信大付属病院

★中原町・元原町

中原町・元原町は善光寺街道の城下町を抜けて岡田宿の中間にあります。
松本藩の時代、街道筋に若干の人家はあるものの原野でした。明治になって、追々農家が集まり、村らしくなってきました。一般農家はほとんどが養蚕で、水田は岡田の普門院を水源とする大門沢川の水を利用していました。中原では馬の飼育が盛んで、運送業を営んだ家も多かったようです。昭和になり、養蚕が衰えると桑畑は林檎の木に変わっていきました。

元原町の街道沿いに明治２８年松本女子師範学校が開校しました。元原町公民館（旧降矢邸）は５０連隊長の宿舎として使われました。この建物が、町の公民館になるのには、かって元原にあったと殺場の補償金が使われたとのことです。

中原町の東は松本５０連隊の練兵場でした。練兵場の跡に旭町中学校、美須々ヶ丘高校、が建てられました。その北隅に「旧歩兵５０連隊跡」の碑が八幡様の小祠とならんであります。中原観音堂は追分交差点西より移転新築しました。長野県護国神社、県陸上競技場（県文化会館・市総合体育館)、松本少年刑務所などがあります。昭和４３年に追分交差点から蟻ケ崎まで、こまくさ道路が開通し、一帯は農村からロードサイドの商業地・住宅地に変貌しました。


松本女子師範学校

跡地に建つ信大付属小学校

養蚕試験場

養蚕試験場跡の碑（安原公民館前）

元原町公民館（旧降矢邸）

こまくさ通り開通前